

営農情報 (麦)

第39号 令和元年12月2日

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

令和2年産麦の播種は11月16日頃から概ね順調に行なわれました。今後は、まとまった雨に備え、排水対策及び雑草対策を徹底するとともに、倒伏しない麦づくりのため、麦踏み・土入れを励行しましょう。

1 施肥基準

緩効性肥料による追肥は、施用時期を極端に遅くすると、倒伏につながる恐れがあるので、遅播き（12月中下旬播き）のほ場においても施用時期を守りましょう。

(kg/10a)

品 種 名	肥 料 名	追肥施用量 (施用時期)	穂揃い期追肥 (出穂7～10日後)
シロガネコムギ	麦追肥一発2号	40kg (1月中～下旬)	—
ちくしW2号	硬質小麦専用追肥 3004	35kg (1月下旬～2月上旬)	硫酸10kgまたは 尿素4kg (水100ℓ)

※ タンパク質含有率を高めるため、硬質小麦専用追肥3004を用い、穂揃い期追肥を確実に行いましょう。

※ 穂揃い期追肥は、赤かび病防除と同時に、尿素による葉面散布も可能です。その場合、10a当たり尿素4kgを、水100ℓに溶かして散布します。

2 雑草防除

＜スズメノテッポウ等のイネ科雑草が発生している場合＞

ハーモニー75DF水和剤の場合、液量が少ないと効果が不十分なので、10a当たり水100ℓ使用します。また、薬害防止と除草効果安定のため、薬剤散布直前～散布後1週間以内の麦踏み・土入れは避けます。

農薬名	適用雑草	使用時期	使用量 (10a当たり)	備考
ハーモニー細粒剤F	スズメノテッポウ 一年生広葉雑草	麦1～3葉期まで 目安:12月下旬まで	4～5kg	ハーモニー細粒剤Fとハーモニー75DF水和剤は <u>いずれか1回しか使用できません</u>
ハーモニー75DF 水和剤	スズメノテッポウ 一年生広葉雑草	播種後～ 節間伸長前まで 目安:1月中旬～ 2月中旬	7.5～10g (水100ℓ)	
	一年生広葉雑草	節間伸長開始期～穂 ばらみ期まで 目安:2月下旬～ 3月下旬	3～10g (水100ℓ) <u>大麦は使用できません</u>	

※カズノコグサ対策について

カズノコグサの多いほ場では、以下のような対策を行います。

- ① 播種直後に土壌処理除草剤(リベレーター)を使用する。
- ② 1月上～中旬にハーモニー75DF水和剤を10a当たり10g、1000lの水に希釈して散布する。

<広葉雑草のみが発生している場合>

雑草の種類に合った薬剤の選択が必要です。麦作こよみを参考に、雑草の種類を見極めて下さい。

除草剤名	使用時期	10a使用量	注意点
アクチノール 乳剤	穂ばらみ期まで 目安：1月中旬～3月上旬	150～200ml	カラスノエンドウに効果高い キンポウゲ類への効果劣る
バサグラン 液剤	麦類の生育期 (小麦：収穫45日前まで 大麦等：収穫90日前まで) 目安：1月中旬～2月上旬	100～200ml	キンポウゲ類に効果高い カラスノエンドウへの効果劣る 散布後の降雨で効果劣る 高温・晴天時が効果高い

※農薬の散布にあたっては、近隣にある他作物、住居などに十分注意してください。

3 麦踏み、土入れ

(1) 麦踏みは、倒伏及び徒長防止に効果があり、麦の葉が3枚以上になってから行います。例年は1月上旬から行いますが、本年は暖冬となっているので、12月中旬～2月下旬(節間伸長開始期頃まで)に、間隔をあけて3～5回程度実施します。

土が乾燥し、茎葉に霜や露がない時に実施します。湿った状態で行なうと、土が締まって排水性が悪くなり、麦の生育に悪影響を与えるので注意しましょう。

(2) 土入れは、麦の葉の枚数が3～4枚になったら始めます。実施時期は、1月上中旬、2月上旬、3月上旬頃の3回くらいが適当です。

1回目は浅く、2・3回目は麦の生育に伴って土入れの量を増やします。雑草防除や排水向上、無効分げつの抑制、倒伏防止などにも効果があります。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!